

たがさぽからのお知らせ

たがさぽが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

市民活動団体、地域づくりに取りくむ団体を応援！

たがさぽでは、市民活動団体や地域の活動の運営のサポートとして、下記の3つを設置しています。

- ①事務用ブース.....団体自立の第一歩へ向け、簡易事務所として利用できます！
 - ②事務用ロッカー...活動に必要な備品を収納・保管することができます！
 - ③レターケース.....団体宛の郵便物・FAXなどの取次や、団体内の書類受け渡しができます！
- 団体の活動拠点として、また組織力・運営力アップのためにぜひご活用ください。

【申込時期】

- ① 事務用ブース ——— 各入居月の約2ヵ月前募集開始
(入居開始：6月/9月/2月の年3回)
- ② 事務用ロッカー ——— 毎年3月中旬頃募集開始
- ③ レターケース ——— 毎年3月中旬頃募集開始

※②③については空きがある場合は、随時募集しています！
お気軽にお問い合わせください。



ヒントfromたがさぽPress

たがさぽのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します！

01

2021年12月14日(火)掲載

**未就学児の防災を
地域で考える
ー第2回こども防災の日をつくる会ー**

02

2021年12月23日(木)掲載

**たがさぽで
「あいりちゃん」(フランスギク)
の植栽をしました**

03

2022年1月17日(月)掲載

**フードボックスへのご協力、
ありがとうございました！**



“たがさぽPress”とは？

たがさぽスタッフによるブログ。
興味がわいたら「たがさぽPress」へ！

<https://blog.canpan.info/tagasapo/>



“tag”のアンケートのお願い



今後の誌面づくりの参考にしたいと思いますので、
ぜひご協力をお願いします！
また、以下のような情報もお待ちしております！
○自分たちの団体を取材してほしい
○ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている
○こんな話題を取り上げてほしい



「tag」には、多賀城(tagajo)の頭3文字、
みんながタッグを組んで地域をつくる、
多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



@tagasapo

たがさぽのツイッターへの
フォローをお願いします！



<https://www.tagasapo.org/>

たがさぽのホームページは
こちらへアクセス！



発行：多賀城市市民活動サポートセンター

〒985-0873 宮城県多賀城市中央2丁目25-3

(多賀城市文化センター北隣・上下水道部向かい)

電話：022-368-7745 / FAX：022-309-3706

編集：NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター



ヒト・コト・モノ を届けます

「多賀城発で多賀城着。」

「tag(たっぐ)」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、
社会や地域のために何か活動したいという方を応援するフリーペーパーです。



2022 spring
vol.97
take free

咲かせよう、防災の種 ～子どもたちの未来を守るために～



▲桜木地区のまめまめ保育園のみなさんと一緒に防災フィールドワークの様子

自力で避難行動を取ることが難しい未就学児の命を守ることを
目的に設立された「こども防災の日をつくる会」。東日本大
震災で犠牲になった石巻の幼稚園児愛梨ちゃんゆかりの花を
通して防災意識の向上を図っている「アイリンブループロジェ
クト」と、防災士の資格を持つ郵便局長たちが連携し、安全で
安心な地域づくりを目指した防災活動に取り組んでいます。
これまでに塩釜・多賀城で、「子どもの命を災害から守るため
に必要なこと」をテーマに地域の方と話し合いの場を設けたり、
防災訓練を行ったほか、さまざまな方法で「子どもたちを守
りたい」という想いを形にしています。アイリンブループロ
ジェクト代表の菅原淳一さんは、「大人が高い意識を持たな
ければ、子どもを守ることはできない」と話します。
この小さな防災の「種」は、やがて各地に広がり、花を咲かせ、
実を結ぶことでしょう。

たがさぽの花壇に「あいりちゃん」と名付けられた
フランスギクの苗を植えました



この苗は、愛梨ちゃんが亡くなった場所に咲いた花の子孫。アイリン
ブループロジェクトの植栽活動で全国各地に広がり、震災の記憶と教訓
を伝えています



▲「地域の方へ貢献したい」と口をそろえる郵便局長のみなさん。まめまめ保育園には防災グッズの寄贈も行いました



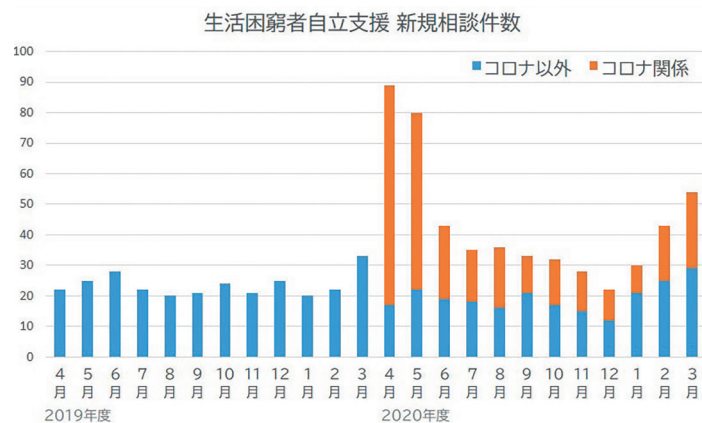
▲愛梨ちゃんのお母さんの佐藤美香さん(右)。語り部活動で震災時に起きたことや教訓を伝えています

知ることからはじまる、困っている人への支援のつながり

となりにいる人が生活に困っているかどうかは身なりや持ち物だけでは判断できません。コロナ禍の今、突然仕事を失い、困窮に陥ってしまう可能性は誰にでもあります。身近にあるこの問題について、一緒に考えてみませんか？

多賀城での生活困窮の現状

新型コロナウイルスの影響を受けているのは多賀城市も例外ではありません。コロナ禍の影響が出てきた2020年度は生活困窮相談件数が増えています。相談の主な内容としては、働き先が無くなり収入が減ってしまった、学校が休校だったので保護者が働きに行けなくなったなどで、生活に大きな影響を及ぼしています。本来なら自立した生活ができていたのに、多賀城市社会福祉協議会による生活資金の貸付などの金銭的な支援や、住居の支援が必要になっているケースもあります。



▲ 相談件数全体が増えています。赤い色の部分はコロナに関しての相談件数です

生活困窮者

就労の状況、心身の状況、地域社会との関係性などの事情により経済的に困窮し、健康で文化的な生活を維持できなくなるおそれのある人のこと

フードバンク

まだ食べられるにもかかわらず廃棄される食品を引き取り、支援が必要なところに届ける活動

フードドライブ

家庭で余っている食品を持ち寄り、寄付する活動

行政、民間団体、NPO…つなげていく支援

多賀城市生活支援課(令和4年4月1日から社会福祉課担当)には、一人でも多くの市民が自立した生活ができるように2015年から「自立相談支援窓口」が設けられており、一般社団法人パーソナルサポートセンターと連携して支援に取り組んでいます。生活の改善ができるよう解決の糸口を一緒に探った上で、必要な支援先へつなぐ窓口となっています。

食料の支援においては、NPOやこども食堂による必要な人に直接食料を届けるフードバンク事業があります。宮城県内を対象に食料支援を行っている「NPO法人いのちのパン」がコロナ禍で2021年に新たに支援した件数は60件。代表者の大友幸証さんは「困っている人は多いはずなのにそのことを周りに言えていないのではないかな。困っているという声を待っているだけでなく支援する側から手を差し伸べることも必要かもしれない」と話します。また、「高崎こども食堂らっこ広場」の大友みどりさんは「こども食堂を利用している人の中には自分が困っていることを相談していい段階だと気づいていない人もいます」と話します。大友さんは困っている人に対して必要な情報を提供する、しかるべき所につなぐということを心がけているそうです。そのためには支援する側同士がつながって情報共有できる関係になっておく必要があると話してくれました。そのほか、多賀城市社会福祉協議会が2020年1月から新たに始めたフードドライブ事業があります。集まった食料などは市内のこども食堂やNPO、支援団体などを通して支援が必要な人に届けられています。

誰もが暮らしやすいまちの実現を目指し、たくさんの活動や取り組みで支援の輪を広げています。このような活動を知ることが、自分や周囲の人を守る第一歩になるのではないのでしょうか。



▲ 食料は賞味期限まで3ヵ月以上あるもの、米は古米でも可。そのほか生活用品も集めています

市民活動 はじまりのはじまり

子どもがのびのびと過ごせ、地域みんなが気軽に訪れることができる場をつくりたい、そんな想いから生まれた「地球子屋(てらこや)」。



東北一小さい町の、子どもの心のよりどころ

震災後の七ヶ浜町民の交流拠点であり、住民の憩いの場としての役割も担っていた施設が、震災から10年の節目で閉じました。スタッフとして子どもたちと接していた石木田さんは、施設閉鎖後も子どもたちが気軽に話せる場を引き継げないかと考え、声をかけてくれた仲間とともに2021年の5月に「地球子屋(てらこや)」という団体を立ち上げました。

コロナ禍の今「集まる」ことの難しさはあるけれど、自分たちができることをやろう！と、学校の長期休業期間にイベントを開催。子どもも大人も楽しんでいる様子を見て、改めて学区や世代を越えて日常的に集い交流できる場の必要性を感じたそうです。時間内であれば出入りが自由な「地球子屋フリータイム」も実施し、勉強や読書など子どもたちが自由に過ごせる場の提供もしています。その中で子ども自身が遊びを通して成長できるきっかけを作り、子どもたちの自主性を後押ししています。地球子屋の活動の様子を見て育った子どもたちと一緒に、地域交流の場づくりの企画や運営を行うのが夢という石木田さんは「子どもたちが、地球子屋でいろんなことに挑戦できる環境をつくりたい」と話します。

子どもを見守り、寄り添い、応援する。そして七ヶ浜に暮らすみんなが笑顔を交わせるような心地いい環境づくりを目指しています。

地球子屋(てらこや)

TEL 080-5225-7494 (担当者：石木田裕子)
E-mail terakoya.s2021@gmail.com
Instagram terakoya_2021



お役立ちアラカルト

交流と防災・減災拠点

さんみらい多賀城イベントプラザ(STEP)

「減災都市・多賀城」実現のために整備された“さんみらい多賀城復興団地”内にある、「さんみらい多賀城イベントプラザ(通称STEP)」。

災害発生時に支援物資の受け入れや各避難所への配送を担う防災拠点施設です。通常時は市民の交流の場としてイベント開催や、テニス・フットサルなどのスポーツでの利用もできる屋内施設になっています。



▲ 2021年7月に開催されたサマーフェスティバル。第1回の開催から大盛況です



▲ ダンボール工作をする子どもたち。自分のアイデアを次々形にしています



▲ クッキーに装飾。完成までを見守り、時には手伝います

お問合わせ先

さんみらい多賀城イベントプラザ

〒985-0874
多賀城市八幡字一本柳114番6
TEL 022-799-7250
FAX 022-799-7253
開館時間 午前9時～午後9時
休館日 12月28日から1月4日まで

STEPのホームページ
はこちらから



たがさばに団体紹介シートを提出している市民活動団体は、利用料の減免を受けることができます



▲さんみらい多賀城イベントプラザ